

日本労働年鑑 第54集 1984年版
The Labour Year Book of Japan 1984

第一部 勤労者状態

III 合理化の現状と労働災害・職業病

3 労働災害・職業病

2 職業病

業務上疾病発生状況の推移

業務上疾病の発生状況を年次別に通観すると、六六年以降、目立って増加していた疾病件数(休業一日以上)は、七九年から大幅に減少した。八一年も率は小さいが、前年よりも減少している(第34表)。

産業別種類別発生状況

つぎに、八一年の産業別、疾病種類別の発生状況をみてみよう(第35表)。産業別では、製造業がもっとも多く、六八二五件である。ついで、建設業、運輸交通業となっている。

疾病の種類別では、負傷に起因する疾病一万三二六九件、ついでじん肺病関係二二四九件、異常温度条件による疾病一五七七件となっており、これら三種類の疾病が全体の大きな割合を占めている。

【参考資料】(1)日本鉄鋼連盟『鉄鋼界』八三年五月号、日本造船工業会『造船界』八三年七月号、(2)日本興業銀行『興銀調査』二一五号、二一六号、(3)『経済評論』別冊「労働問題特集号4(ME革命と労働組合)」、(4)『労働運動』八三年二月号、(5)電機労連『調査時報』一八二号、(6)労働省『昭和五七年労働経済の分析』、(7)『月刊いのち』、(8)組合機関紙(鉄鋼労連、電機労連、自動車労連、自動車総連、造船重機労連、全造船機械、合化労連、化学総連、紙パ労連)、(9)坂ノ下征稔「先端技術の導入と労働者の状態——自動車産業の場合——」(総評全国金属『金属労働資料』八三年六月号)、(10)『日本経済新聞』、『日経産業新聞』、『朝日新聞』

日本労働年鑑 第54集 1984年版

発行 1983年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 ●

2001年8月28日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1984年版(第54集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】